



K-Port : 電子ジャーナルのアクセス支援環境

佐藤 高廣

I. はじめに

普段の生活では、深くは意識されない社会の情報化（電子化、IT化など）ですが、学術情報の世界では、急速に確実に進展しています。その中核的な存在が「電子ジャーナル」になるといって間違いのないでしょう。

電子ジャーナルは、少し以前、1990年代後半では、その速報性や検索機能、リンク機能などの長が説明され、今から見れば牧歌的ともいえる時代でした。しかし今日では、電子ジャーナルと二次情報データベースとの融合や、電子ジャーナル間でのリンクが進み、また、電子化によって雑誌と書籍の垣根が低くなるなど、技術面ではweb（くもの巣）化の様相に一層の拍車がかかっています。一方、出版社ごとの契約方法や価格体系の差異は収束の兆しはなく、電子ジャーナルの管理面では複雑の極みを呈しています。この現状を「カオス」と認識する出版人も多いようです。

また、図書館に目を転じると、周知の通り、社会の情報化の中で、その役割は「資料の保存」から「情報へのアクセスの提供」へと、ダイナミックに転換しつつあります。電子ジャーナルという形態に顕著なように、ネットワーク上の情報資源が急激に増大しています。図書館は、従来の資料保存や整理に傾注していた努力を、ネットワーク環境の構築や、リンクリスト作成、アクセストラブルの解決など、電子資料の利用環境の整備へ振り向けていくことが求められて

います。

本稿では、この「利用環境」問題に対して、当社が提供する K-Port のサブメニュー OJ Web を中心に、解決策の一つをご提案します。また、紙数が許す範囲で「カオス」問題に対する見解も、最後に示したいと考えています。

II. 学術情報ポータル K-Port

1. 概要

K-Port (<http://portal.kinokuniya.co.jp>) は、紀伊國屋書店が提供する学術情報に特化したポータルサイトです。より良質の一次情報へアクセスするために、より充実した二次情報群を提供するといった発想のもと、1999年10月にサービスを開始しました。以来、約二年半を経て、2002年4月現在、K-Port は全国380の大学、官公庁・企業の研究所・資料室にご利用をいただいています。

ポータルサイトとは、インターネットの「玄関のサイト」といった意味で、ディレクトリ型の検索サービスを提供する Yahoo! などが著名です。K-Port も学術情報のポータルとして、これを入口に、インターネット上の学術データベースや電子ジャーナルなど、多様な情報資源へのアクセスを提供しています。データベース検索、雑誌情報、書籍注文、論文注文、また推奨リンク集などのメニューが利用可能です。

2. 特徴

K-Port の大きな特徴の一つは、接続機関のネットワークの IP アドレスによってユーザーを特定し、機関ごとにカスタマイズした画面を用意している点です。例えば「電脳大学」の

ネットワークに所属するエンドユーザーが K-Port へ接続すると、「**電腦大学**」の名称が冠されたトップページが表示され、その機関専用のメッセージを閲覧し、専用のリンク集を利用することができます。あたかも自機関提供の Web ページへ接続したかのごとく、K-Port を利用することが可能です。K-Port のトップページには「**紀伊國屋書店**」の名称はありませんので、企業色を意識せず、ご利用いただけるものと思います (図 1)。

また、エンドユーザーが、個人用のページ (I-Page) を自由に作成できることも、K-Port の特徴の一つです。I-Page の利用によって、未だ限定的ではありますが、ID・パスワード認証サイトへの自動ログインや、データベースの取捨選択、リンク集の登録などができます。さらに、I-Page ユーザーは、所属機関のネットワークの外部、自宅などからでも、K-Port を利用することが可能になります。

3. 利用料金

K-Port の登録・利用は無料です。ただし、いくつかの利用条件があります。当社の外国雑誌システム Access Service や、当社代理店のデータベースの契約ユーザーであること等が、

K-Port 登録のために必要です。利用申し込み後は、認証のための IP アドレスを設定し、管理用の ID とパスワードを発行します。即日、利用可能となります。詳しくは、別途お問い合わせください。では以下、K-Port の電子ジャーナルへのアクセス支援機能に絞り、ご説明します。

Ⅲ. 電子ジャーナルの利用環境 OJ Web

K-Port の電子ジャーナル関連メニューには、電子ジャーナルのハイパー型目録 Journal Catalog、また、電子ジャーナルへのリンクシステム Online Journal Web (略して OJ Web) とがあります。OJ Web には、全ユーザー共通の「総合版」、各機関専用の「個別版」、そして学術論文の検索を行う「文献検索」の三つのシステムがあります。総合・個別版共に、2002年4月にバージョンアップをしました。

1. Journal Catalog

Journal Catalog は、紀伊國屋書店の外国雑誌データベースを K-Port 上のサービスメニューにしたものです。創刊誌、基本重要誌、代理店誌、電子ジャーナルの四つの切り口から 10,000 タイトルの学術雑誌情報を検索できます。各タ

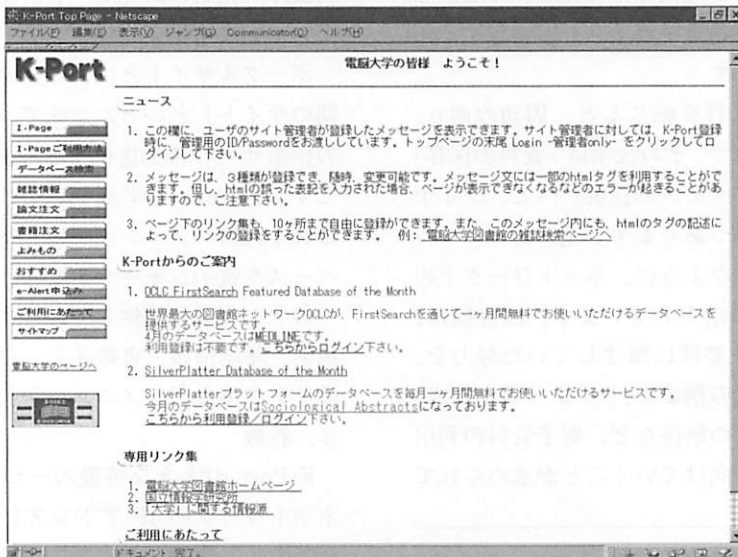


図 1. K-Port トップページ

イトルの目録では、書誌情報のみならず、電子ジャーナルの料金体系や申込方法などの商品情報を掲載し、ジャーナルサイトへのリンク機能も提供するユニークな目録です。

2. OJ Web 総合版

Journal Catalog の電子ジャーナルリンク機能を集約したシステムが Online Journal Web (OJ Web) です。OJ Web 総合版では、すべての電子ジャーナルタイトル6,000が、リンクリストの形式で利用できます。各タイトルは、アルファベット順に表示され、それぞれ電子ジャーナルサイトへのリンクが設定されています。しかし、総合版では膨大でありすぎ、使いにくい場合も多いでしょう。そこで、K-Port の各利用機関の単位に、リンクリストをカスタマイズして利用できるようにしたものが、OJ Web 個別版です。

3. OJ Web 個別版

OJ Web 個別版は、K-Port の各機関専用の電子ジャーナルリンクリストです。表示されるタイトルには二種類があります。一つは、紀伊國屋書店経由で購読されているタイトルのうち、電子ジャーナルがあるタイトル。もう一つは、各ユーザーの管理者がリストに追加登録したタ

イトルです。この両者は、管理者用モード上では区別されていますが、エンドユーザー画面では区別なく表示されます。紀伊國屋登録分をエンドユーザー向けのリストから外することも可能です。また、各タイトルの表示の下には、管理者が入力した注記情報の表示ができます。アルファベット単位でページ分けされたリンクリストは、タイトル順あるいは出版社順のソートが可能です(図2)。

今回のバージョンアップの大きな点は、選択できるジャーナルサイト(出版社系、学会系、ベンダー系など多様ですが)を増やしたことでしょう。2002年4月現在のOJ Webでのリンク先サイトは、Publisher(出版社の電子ジャーナルサイト)、ingenta, CatchWord, HighWire, Muse, ScienceDirectそしてOCLC FirstSearch ECOとなっています。タイトルによって提供されるサイトが変わり、また、どのサイトで電子ジャーナルを利用するかも、機関の諸事情によって異なります。OJ Web 個別版では、任意のサイトを選択し、あるいはタイトルを追加登録することで、オリジナルなリンクリストを構築することを可能にしています。リンクリストはシンプルな仕組みですが、その整備には結構



図2. Online Journal Web 個別版

な時間を取られます。その省力化が可能となるでしょう (図3)。

4. OJ Web 文献検索

OJ Web 文献検索は、電子ジャーナルを論文単位で検索し、その結果から該当文献へとリンクするシステムです。検索するデータは、K-Portが契約する出版社 (Taylor & Francis, Kluwer, Cambridge UP, Lippincott W.W etc.) の目次・抄録データと、British Library の目次データで、BL データ分は有料です。BL データは、学術系タイトルではないものが多数収録されるなどの欠点がありますが、OJ Web では該当文献へたどり着くためのツールと限定して使用しています。

以上のように、電子ジャーナルの進展に合わせ、OJ Web、また K-Port も前進を続けています。電子ジャーナルの利用環境の足がかりとして、図書館・資料室の実態に合わせ、上手に活用していただければ幸いです²⁾。

IV. おわりに

「カオス」ともいわれる電子ジャーナルの現状の中で、書店の立場からの見解を申し上げ、締めくくりとします。我々は、書店は従来の雑

誌購読の取次業務 (サブスクリプション・エージェント) から、顧客の購読雑誌全体の最適化を図るコンサルティング業務への役割の転換が必要と考え、この役割を「マネージング・エージェント Managing Agent」という造語に表現しました。具体的には、電子ジャーナルと冊子体との配分や、サイト契約やコンソーシアム購入の妥当性の検討など、契約・費用に関わる面からの支援。また、二次情報データベースを含めた電子ジャーナルの利用環境の整備、テクニカルサポート、リンクリスト構築など、技術・運用面からの支援等。混濁する転換期の中で、お客様の問題解決の全的なサポートをしていきたいと考えています。

参考文献

- 1) 佐藤高廣：紀伊國屋書店の統合情報ポータルサービス「K-Port」, 医学図書館, 2000 ; 47 (2) : 207-209.
- 2) 佐藤高廣：K-Port / OCLC ECO 電子ジャーナルの統合的な利用環境のために, ほすびたるらいぶらりあん, 2001 ; 26 (4) : 299-305.



図3. Online Journal Web 個別版の編集画面